

## 今日のみことば

### □ 4月9日(日) ガラテヤ 4章

責められたり、欠点を素直に指摘してくれることは、決して気持ちのいいものではありません。しかしこれを受け入れ、正しい道を求める者は幸いです。

### □ 4月10日(月) ガラテヤ 5章

キリストは自由を得させるために、私たちを律法から解放して下さい。この与えられた自由を、聖霊によらない歩みや考え方をとする自由としてはならない。

### □ 4月11日(火) ガラテヤ 6章

御霊の実が私たちのうちに結び始めるとき、罪に陥った人たちに対しては、愛と柔和をもって正すべきです。互いに心の重荷を負い合うなら、キリストの律法は満たされる。

### □ 4月12日(水) エペソ 1章

神の教会についてのみ旨は、神の栄光を表すことが教えられます。教会が神の永遠のみ旨の中にある存在であると言うことはなんと驚くべきことであろうか。

### □ 4月13日(木) エペソ 2章

私たちが救われたのは、私たちの信仰を通して神がなして下さった恵みのみ業です。その信仰はよい行いを結果とする。キリスト者は神に備えられた生活を生きるものです。

### □ 4月14日(金) エペソ 3章

神を深く知ることは、全キリスト者の義務である。これは単に知性によってのみでなく、全教会が一致して初めて出来るのです。それが出来るように神は内なる私を強くして下さい。

### □ 4月15日(土) エペソ 4章

パウロはキリスト者の生活基準を教えるが、それは単なる教理ではなく、私たちが「召された召しにふさわしく歩」くために知らなければならぬ教理として教える。

## ろば No. 1810

2017年 4月 9日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

### ゼカリヤ 9:9

娘シオンよ、大いに踊れ。  
娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。

主イエス・キリストがお甦りになった喜びを感謝する日曜日の一週間前、イエスは「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に」(ヨハ12:13)との叫びと共に迎え入れられました。イスラエルをこの危機から救って下さるお方、イスラエルの王として人々はイエスを迎え入れました。

また、イエスの不思議な力ある業を見て、イエスを王として迎えようと(ヨハ6:15)と行動したこともありました。それら人々の思いだけではありません。主の誕生を祝い東方から来た学者は「ユダヤ人の王としてお生まれになったお方は、どこにおられますか」と尋ねてヘロデ王のもとを訪れました。神もまた、聖霊の油注ぎによって

イエスを王とされました(マタ3:16-17)。私はイエスは「王」としてこの世においでになったと、受け止めさせていただくのです。けれども人々はこのお方を、「十字架につける、十字架につける」と叫んでイエスを殺しました。これらの出来事を通して私たちは何を見るのでしょうか。私たちは王に何を期待しているのか。イスラエルの民が神に自分たちの王を求めて、イスラエルに王制が敷かれ、サウル、ダビデ、ソロモンと繁栄を続けてきました。しかしそれは長続きしませんでした。私はそこに今日においても、しっかりと学ばねばならない大事なことを聞かせていただいています。

私たちが求める王の気質は、イスラエルの民が神に、イスラエルにも王がほしいと願った理由に見られます。周りの列強の国々を見て、自分たちもそうでありたいと言うことでした。要は他より秀でる者になりたいと言うことです。おそらく人間が誰しも願っていることだと思っていますが、神が願っておられること、イエスを通して私たちに示された王の姿は違いました。イエスは「あなた方のうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい」(マタイ23:11)と言われました。イエスが歩まれた道です。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(ピリピ2:6)。私たちは王であるお方に何を見るのでしょうか。私はこの受難週の初めの日の出来事をしっかりと心に留めさせていただきながら、私は今日の時代にこそ、救い主たる王が出現することを願わさせられています。その困難さは十分すぎるほど理解しています。しかしそれ以外に平和が実現される道はないからです。

この王は「ろばに乗って、雌ろばの子であるろばに乗って」来られるお方です。私はこのみ言葉の実現を切に祈り願っています。私たちは、自分に力が、栄誉が与えられることを求めては何も得られないことを知るべきです。「仕えられるためではなく、仕えるために」イエスは来られたと言われる。そこにこそ真の王を私たちは見させていただくのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————  
ヨハネ1:6-8 私たちの証しの中身

「神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しするために来た。光について証しをするため、またすべての人が彼によって信じるようになるためである」と記されている。ヨハネの務めでした。

私たちはいかに証しをするのですか。まず私たちは罪の赦しの喜びを証しするのです(詩篇32:12)。主キリスト・イエスをエスは信じて受け入れたことによって永遠のいのちをいただいたことを証しします(ヨハネ3:16, 36)。このイエスが私を友と呼んで下さったことを証しします(ヨハネ15:15)。聖霊が私と一緒にいて下さる感謝を証しします(ヨハネ14:16-17)。神は私たちの祈りをしっかりと聞き、受け止めて下さる感謝の証しをします。(マタイ6:6)。神は私と共にいて下さる。どのような悲しみ、苦難の時も共にいて下さる、「もはや死もなく、悲しみも嘆きも労苦もない(黙示録21:35)と証しをします。



Read God's Word.